

松野町地域福祉活動計画

【第2期】 令和4年度～令和8年度

いまある支え合いを大切に
自分たちでまちづくり



社会福祉法人 松野町社会福祉協議会
松野町地域福祉活動計画策定委員会

はじめに

町民の皆さまには平素より、松野町社会福祉協議会の諸活動にそれぞれの立場から温かいご理解とご支援を賜り厚くお礼申し上げます。

早いもので、平成 29 年度からスタートした第 1 期松野町地域福祉活動計画の策定から 5 年の歳月が経過しました。この間、自分たちの身近な 10 地区の推進委員を中心に活動を積み重ねながら、町全体の地域福祉活動を推進してまいりました。

地域においては、人口減少、少子高齢化、家族、親せき、地域という生活領域における支え合いの機能が弱まる中、地域福祉を取りまく環境は変化を続けております。また新型コロナウイルス感染症は、地域福祉活動にも大きな影響を及ぼし、新たな取り組みが求められるようになりました。これまで福祉サービスや制度が充実してきたものの、多様化・複雑化する価値観や福祉ニーズへの対応は、公的なサービスだけでは行き届かず、自助でもままならない状況があります。

私たちそれぞれが望む暮らしを実現していくには、個人や家族等で対応できないことを、隣近所や地域で力を出し合い、支え合う活動も必要で、本会をはじめ、行政や専門機関は、そういった活動をバックアップしていく使命があると考えております。そこでこの先 5 年間の支え合い活動の方向性を示した、第 2 期松野町地域福祉活動計画を策定し、これまでの活動や理念を継承しつつ、更なる地域福祉の推進に向け、町民の皆さまと関係団体と連携して推進してまいりたいので、多くの皆さまのご理解、ご参画をいただきますようお願い申し上げます。

最後に、本計画の策定にあたり貴重なご意見と多大なご協力を賜りました策定委員の皆さまをはじめ、各地区の推進委員の皆さま、アドバイザーの高木寛之先生、松野町行政のオブザーバーの皆さまに心より感謝とお礼を申し上げます。

令和 4 年 3 月

社会福祉法人 松野町社会福祉協議会
会 長 中 森 京 司



アドバイザーからのメッセージ

松野町の皆さん、第 2 期地域福祉活動計画策定おめでとうございます。松野町では「いまある支え合いを大切に 自分たちでまちづくり」を基本理念に、第 1 期地域福祉活動計画策定時より、10 地区での地域福祉活動を進めてきました。その歩みは、コロナ禍で隠されてしまった部分もありますが、確かな一歩として、確実に前進しています。また、その軌跡は、これまでの“Matsuno Report”や第 2 期計画の評価の中に確認することができます。そこでは、地域福祉活動計画に関わる多くの住民が、社会福祉協議会をはじめとする専門職とともに、自分たちの地域の現実を見つめ、地域の持つ良さや地域の中で困りごとを抱える人を発見し、互いに話し合い確かめ合うことで当事者意識を持ち、解決策を見出し、行動に移してきました。そこでは、「この松野町に暮らす住民が生活を継続するために自分には他に何ができるか」という、一歩踏み込んだ地域生活に対する自分たちの責任意識を問いつける文化が生まれてきたと思います。

第 2 期地域福祉活動計画では、このような文化を地域に相続していくこと。そして何より、住民の皆さんと社会福祉協議会がともに作ったこの計画への支持者を増やしていくことが重要になります。「いまある支え合いを大切に 自分たちでまちづくり」という基本理念に対する支持は多くの住民から得ることができると思います。そこからさらに一歩踏み込んだ、地域生活に対する自分たちの責任意識を問いつける文化への支持が得られるように、皆さんの力を使ってこの計画を広めていきましょう。

現在、コロナ禍の長期化で、つながりたくてもつながることができなかつたり、見つけることが難しかったりと、“社会的”に孤立してしまう人々が生まれています。松野町の今までの（これから）計画に基づく行動は、このような“社会的”な孤立を生み出さないように“社会的”なつながりを生み出すことを目指してきました。しかし、コロナ禍では、既存のつながり方は難しくなります。そのため、今までの経験則に基づく取り組みを再考する必要があります。計画を広め、支持を得ていく中で、新たなアイデアを取り入れ、松野町らしい“社会的”なつながりを生み出していきます。そして、10 地区それぞれの思いを言語化したキャッチフレーズ（こんな地区だったらいいな）が当たり前にある、その思いを住民が応援できる、そんな地域を目指していきます。

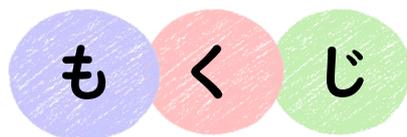
令和 4 年 3 月

公立学校法人 山梨県立大学

人間福祉学部福祉コミュニティ学科

准教授 高木 寛之





第1章 この計画書について

- 1 計画の趣旨 6
- 2 「自助」「共助」「公助」で進める地域福祉活動計画 7
- 3 「我が事」「丸ごと」地域共生社会の実現を目指して 8
- 4 計画の位置づけと計画の期間 9

第2章 現状と課題

- 1 第1期松野町地域福祉活動計画の評価 12

第3章 地域福祉推進のための実施計画

- 1 松野町地域福祉活動計画（全体計画）
 - (1) 基本理念 18
 - (2) 基本目標 18
 - (3) 計画の体系と活動方針 19
- 2 地区福祉活動計画 23
 - 松丸地区 24
 - 延野々地区 26
 - 豊岡後地区 28
 - 豊岡前地区 30
 - 富岡地区 32
 - 上家地地区 34
 - 目黒地区 36
 - 吉野地区 38
 - 蕨生地区 40
 - 奥野川地区 42
- 3 松野中学校生徒会 まちおこプロジェクト 44

第4章 今後の推進にあたって

- 1 計画の周知 48
- 2 計画の推進体制・進行の確認 48
- 3 かかわりのある主な社会資源（ヒト・団体・組織など） . . . 49

資料編

- 1 松野町社会福祉協議会取り組み事業 51
- 2 関係者名簿 52

この計画書のイラストについて 53

第1章

この計画書について



I 計画の趣旨

近年、人口減少を背景とする少子高齢化や核家族化、高齢者のみの世帯の増加などを要因として、地域活動の担い手不足などによる住民同士で支え合う力の低下や家族機能の低下が危惧されています。また、一人ひとりの生活が多様化する中で、高齢者や子どもへの虐待、いじめ、閉じこもり、孤独死、景気の低迷を背景とした生活困窮者の増加や定職を持たない若者の増加など、様々な福祉・生活課題が顕在化しています。

さらに、新型コロナウイルス感染症対策の影響により、人々のライフスタイルは大きな変化を見せています。感染症拡大に伴う外出自粛により、働き方の変化や地域活動の減少など、今までとは異なる様々な影響が懸念されており、住民生活によりきめ細かな対策が必要となっています。

松野町社会福祉協議会では、「私たちの望む暮らし」を実現するため、「第1期松野町地域福祉活動計画」を5年間実施してきました。その反省点を生かし、それぞれの自分らしい生き方や暮らし方をしたいという思いを大切に、住民の皆さんや関係団体と協力しながら、「私たちにできること」を一人ひとりが考え、行動するために、「第2期松野町地域福祉活動計画」（令和4年度から5年間）を策定しました。

2 「自助」「共助」「公助」で進める地域福祉活動計画

地域福祉の推進は、住民と行政、そして福祉活動の様々な担い手との協働によって取り組まれるものです。

支援を必要とする人が地域で生活するためには、その人に対する地域の理解だけでなく、その人自身の自立や社会参加への意欲も大切です。日頃から近所づきあいを大切にし、地域活動に積極的に参加するなど、普段から関係を築いていくことも「自助」のひとつといえます。

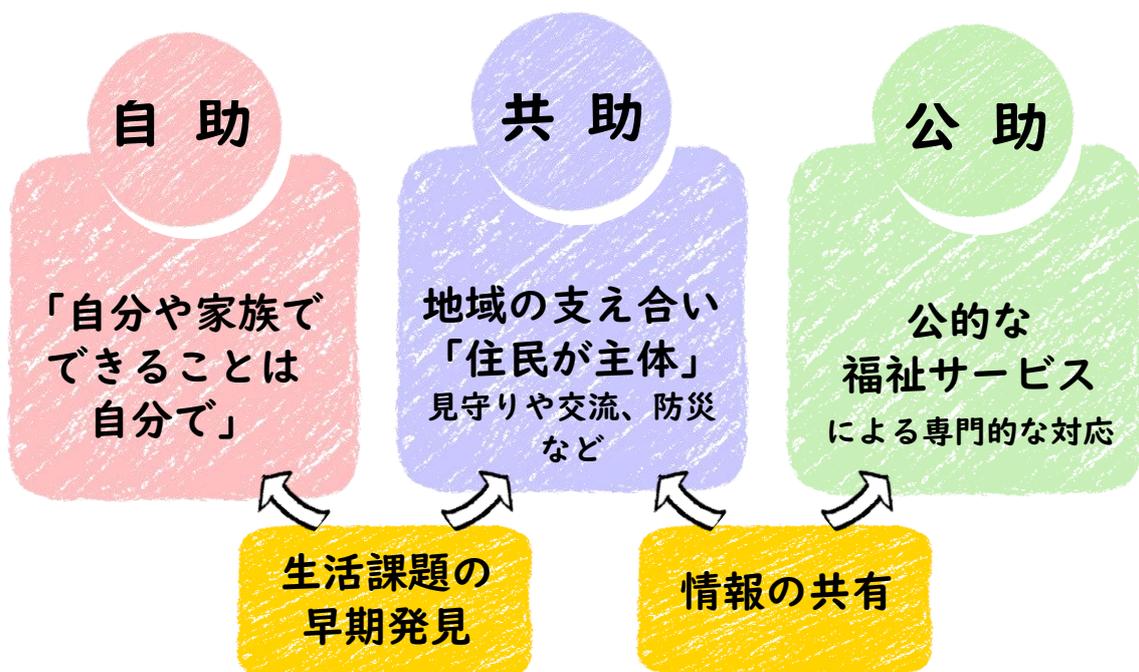
また、公的な福祉サービスでは補えない生活課題に対しては、住民が主体となる自発的な地域活動により解決し、支援を必要とする人の地域生活を支えるという「共助」も必要です。

そして、行政には公的な福祉サービスの提供に加え、「自助」や「共助」を進めるために必要な支援を行うという「公助」の役割があります。

地域福祉の推進には、「自助」「共助」「公助」がひとつとなって進んでいくことが必要です。

松野町地域福祉活動計画も、「自助」を基本に、「共助」「公助」と連携しながら、地域で暮らすみんなでつながり、協力し、取り組んでいくことを目指します。

協働による地域づくり



3 「我が事」「丸ごと」地域共生社会の実現を目指して

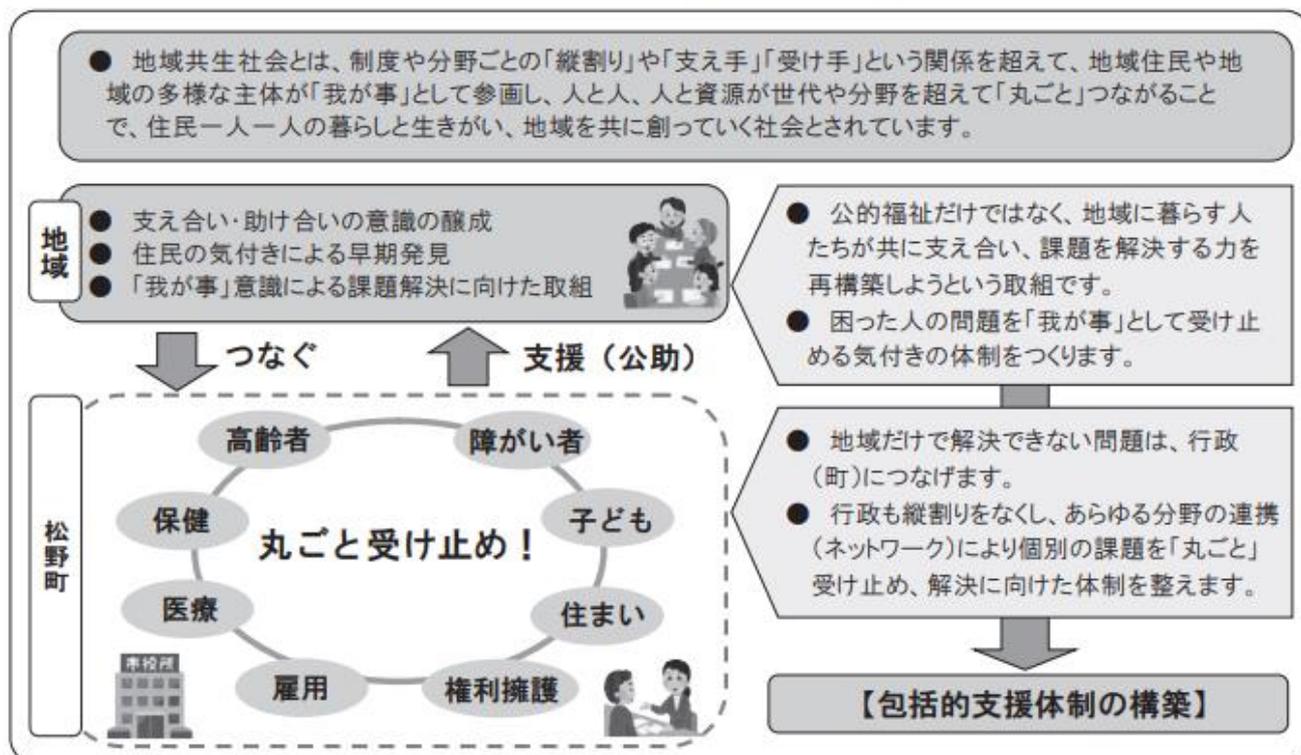
国は、日本の未来像として、制度・分野ごとの「縦割り」や「支え手」「受け手」という関係を超えて、地域住民や地域の様々な主体が参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超えて「丸ごと」つながることで、住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域を共につくっていく「地域共生社会」の実現を掲げています。

また、社会福祉法の一部改正により、「地域福祉の推進は、地域住民が相互に人格と個性を尊重し合いながら、参加し、共生する地域社会の実現を目指して行わなければならない（第4条第1項）」とし、地域福祉推進の理念に、地域共生の考え方が盛り込まれました。

さらに、国際的にも我が国においても、豊かで活力ある未来を創る「持続可能な開発目標（SDGs：エスディージーズ）」が示され、「だれ一人取り残さない持続可能で多様性と包摂性のある社会」の実現に向けて、貧困や不平等、福祉などの課題を解決するための目標が設定され、取り組みが進められています。このSDGsの「だれ一人取り残さない持続可能で多様性と包摂性のある社会」に実現は、地域共生社会づくりにつながるものであります。

私たちも、松野町地域福祉活動計画を推進することで、地域に生活するさまざまな人たちの問題を「他人事」ではなく「我が事」として考え、住民同士がつながり、支え合うことのできる、だれもが自分らしく安心して暮らせる地域を目指します。

【地域共生社会実現の全体像イメージ】

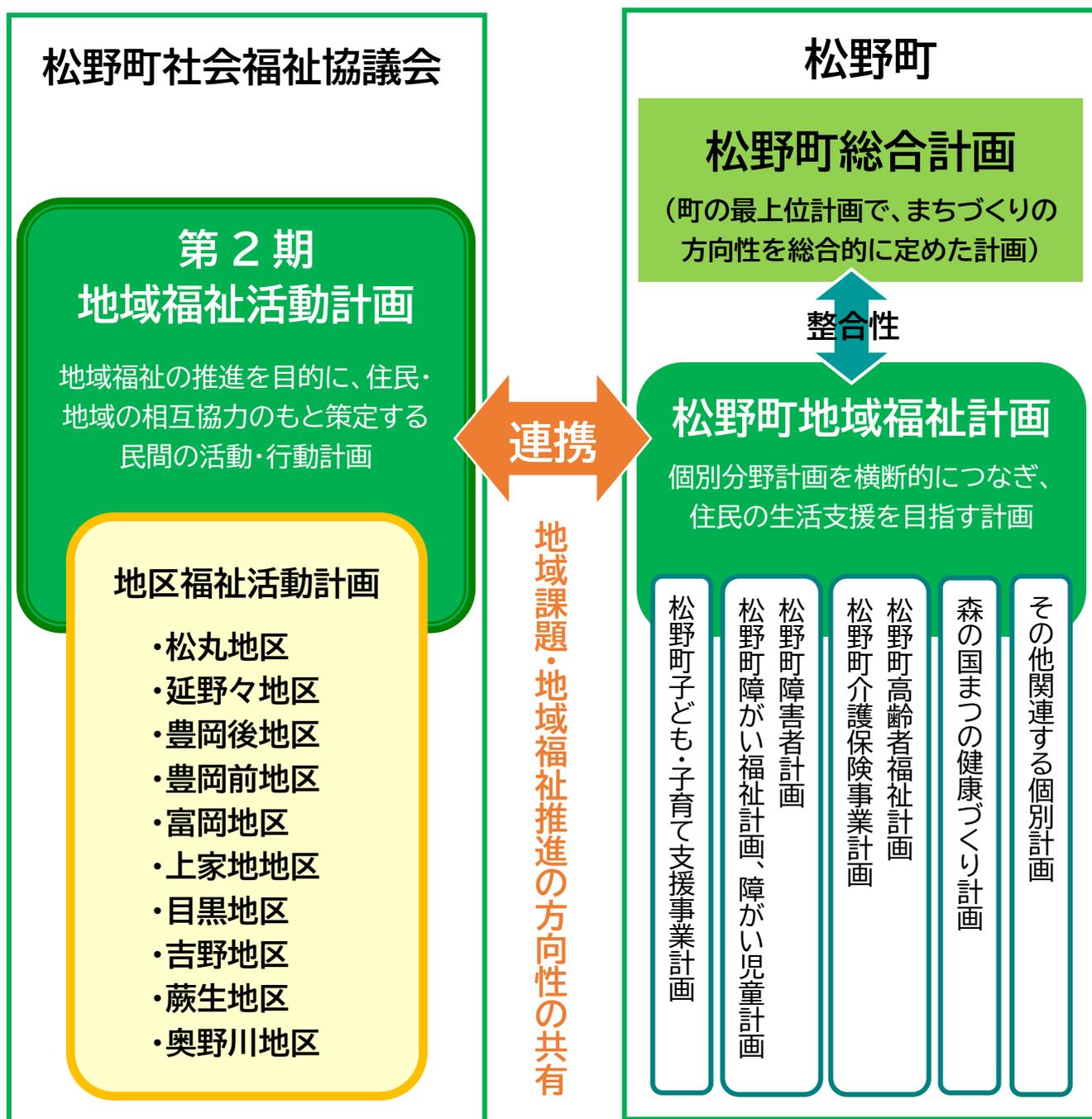


資料：松野町地域福祉計画

4 計画の位置づけと計画の期間

地域福祉活動計画は、松野町の「地域福祉計画」と連携し、地域住民、社会福祉を目的とする事業者・団体、民間企業、行政機関など、地域社会を構成するすべての人や組織が連携・協働し、「地域の助け合いによる福祉（地域福祉）」を計画的に推進するため、民間の活動・行動計画として位置づけられています。

本計画は、令和4年4月から令和9年3月までの5年計画としますが、地域や社会状況の変化に対応するとともに、「松野町地域福祉計画」と相互に連携・協力していくため、必要に応じて内容や計画期間を見直すことがあります。



第2章

現状と課題



Ⅰ 第Ⅰ期松野町地域福祉活動計画の評価

松野町の地域福祉活動計画の特徴は、身近な地域（地区単位）での近所づきあいや交流をベースとした、見守り・支え合い活動を中心的な役割として、町内10地区の小委員会で話し合いを重ね、自分たちの言葉でまとめた10地区それぞれの活動計画を策定したことです。

この活動計画を5年間推進してきた中で、毎年、地区福祉活動計画推進委員会を開催し、地区ごとに推進している活動の進捗状況を確認しながら、活動内容や地域の状況・変化について共有し、必要な活動につなげてきました。

10地区それぞれで活動計画に取り組んでいくことにより、自分たちの身近なところからより良い地域にしていこう、そして、その活動のつながりや積み重ねによって松野町全体をより良くしていこう、という活動計画になっています。

自分たちの身近なところから、自分たちの思いを活動にすることで、一人ひとりの主体的な活動につなげようとして取り組んできました。

基本理念：いまある支え合いを大切に 自分たちでまちづくり

基本目標		活動方針
1	知ることからはじめよう	福祉情報を発信しよう
		福祉学習を進めよう
2	つながりづくりをしよう	「集う場」をつくろう
		見守り活動をしよう
3	みんなで支え合おう	「お互いさま」の活動をしよう
		災害に備えよう
4	自分らしく生きよう	住み慣れた地域で暮らそう
		権利（暮らし）を守ろう
		受け止め、つなげよう

第2期計画の基礎とするため、10の地区単位で実施した推進委員会でのそれぞれの地区活動のふりかえりを基に、5年間で生み出された活動、地域の課題、住民の皆さんが今後取り組んでいきたいことについても整理し、次のように評価しました。

また、併せて、社会情勢の変化等にも対応した見直しを行います。

基本目標ごとのふりかえり

基本目標 Ⅰ	知ることからはじめよう
目指すこと	福祉が身近なものであることを知る
	地域の福祉活動や必要な情報を知る
	地域に住む人の「暮らし」を知る
気づきや生まれた活動	<ul style="list-style-type: none"> ● 延野々地区では、年 4 回「のびのびの新聞」を発行しており、高齢者にも情報が届くよう、地区内全戸（おへやおもや）に配布している。様々な世代の人に関心を持ってもらえるよう工夫し、新聞を楽しみにしている人が増えた。また、新聞づくりでメンバーが集まるごとに、組の情報共有をする場になっており、地区の状況や変化に気づきやすいという効果が得られた。 ● 中学校の福祉学習で、富岡地区・蕨生地区の推進会に参加し、中学生と推進委員と意見交換を行った。その中で、お互いのことや地域に対する思い・活動について知ることができた。そして、中学生が「地域の方とやりたい活動」を推進委員と一緒に取り組むことができ、「思いを叶える活動」となった。 ● 豊岡前地区では、活動計画のキャッチフレーズを印刷した封筒を作って、住民に文書を送付する際に使っており、活動計画の周知につながっている。 ● 推進委員会に行政や地域おこし協力隊の方も参加してもらい、活動内容を共有してもらうことで、一緒に地域食堂などの取り組みにつながった。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ● 地区内でも、「世代が違くと知らない」という方が多い。 ● 新型コロナウイルス感染症対策の影響で、飲み会や集まる場を持ちづらくなり、その人となりや思いを知る機会が少なくなった。
次期計画	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域の福祉情報や地域活動をより広く発信するために、従来の広報媒体の充実のほか、SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）の活用についても進めていく必要がある。 ● 困りごとを支える活動だけでなく、思いを支える活動についても取り組んでいく。 ● 推進委員会を実施する中で、地域アセスメントを推進委員と一緒にいき、福祉学習の機会と捉える。

基本目標ごとのふりかえり

基本目標 2	つながりづくりをしよう
目指すこと	住民同士がつながる場に参加する
	あいさつや声かけを通して見守り活動につなげる
	住民と専門職と情報共有ができる
気づきや生まれた活動	<ul style="list-style-type: none"> ● サロン活動は、実施個所が6ヶ所から10ヶ所に増えている。その他、サロン活動には登録していないが、「集まる場」もできており、住民の主體的な福祉活動が拡大した。活動内容は、自分たちの楽しみの活動だけではなく、門松作りやつるし雛作りなど、「地域を元気にする」活動にもつながっている。 また、新型コロナウイルス感染症対策の影響でサロンがしづらい時は、交換日記のようなものをみんなて回して、元気確認をしていたサロンがあり、集まらなくてもつながりづくりができていた。 ● 地区ごとに昔ながらのつながりがあり、回覧板やあいさつを通じて緩やかな見守り活動につながっている。 ● 蕨生地区で地域食堂を実施し、様々な世代の方が参加し、交流の機会となった。また、参加者全てに役割が持てた。 その他の地区でも世代間交流への取り組みが継続しており、「集まって楽しみながらつながりづくりをしたい」という意見があった。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ● 新型コロナウイルス感染症の影響で、地域活動がしづらかった。 ● 個人情報の意味や目的、プライバシーへの配慮について地域全体で理解できておらず、「気になることがあってもふみこめない」という意見があった。
次期計画	<ul style="list-style-type: none"> ● 集まらなくてもつながる方法やできる活動について検討する。 ● 見守り活動への取り組みだけでなく、見守られ上手になるような取り組みが必要である。また、専門職がサロン等の地域活動に参加し、住民と情報共有しやすい関係性の構築にも取り組む必要がある。

基本目標ごとのふりかえり

基本目標 3	みんなで支え合おう
目指すこと	地域の活動に関心を持つ
	今ある地域の支え合い活動が継続できる
	災害時に備えた平時のネットワークづくりができる
気づきや生まれた活動	<ul style="list-style-type: none"> ● 上家地地区では、「高齢者」という区切りはなく、「地区の人」という考え方で、地域活動には「来られる間は来てもらい、出来ることを出来るだけしてもらい、動きづらくてもおしゃべりに来るだけでもいい」という考え方で、気兼ねなく支え合う関係性作りに取り組んでいる。 ● 豊岡後地区、豊岡前地区の青年部、富岡地区、目黒地区の青年部的組織「アイブラック」、吉野地区では、映画上映会やクリスマス会、伝統行事のサポート等の取り組みを通して、子ども達への楽しみ作りや地域活性化につながっている。 ● 富岡地区では、「援農会」を作り、高齢者等の草刈りの支援を行っている。地域活動を通じて、「困ったことを言いやすい関係を作りたい」という意見があった。 ● 豊岡後地区では、災害に備えた情報共有として、命を守るという観点から、消防団を中心に、近所の方から独居の方の情報を教えてもらい、マップ作りをしている。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ● 「家族がいるのに、声かけ等深入りしすぎていないか心配、どこまで入り込むか、距離感が難しい」という意見があった。 ● 「困っている人がいたら助けたいと思うが、何をして欲しいかが分からない」「気軽に困っていることを言って欲しい」という意見があった。 ● 「災害時の訓練が出来ていない」という意見があった。
次期計画	<ul style="list-style-type: none"> ● 「支えられるだけの存在でなく、役割のある存在」という視点の取り組みも必要であり、だれもが活躍の場があり、頼り合える「お互いさま」の活動を強化する。 ● 地域で交流する機会を活用し、災害時の訓練も併せて行い、関係性構築にもつなげる。

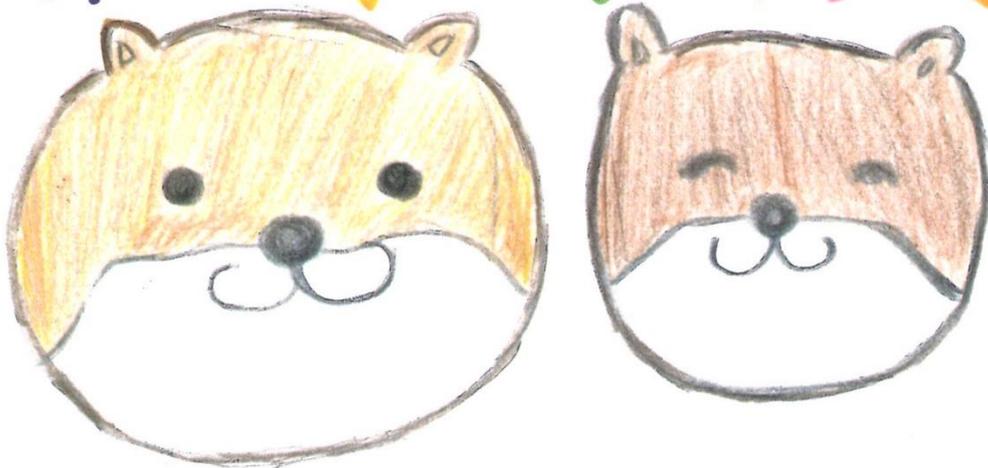
基本目標ごとのふりかえり

基本目標 4	自分らしく生きよう
目指すこと	「困った時はお互いさま」の関係を継続する
	制度やサービスを適切に利用できる
	ちょっとした変化に気づき、関係機関につなげることができる
気づきや生まれた活動	<ul style="list-style-type: none"> ● 松丸地区では「かれん会」が主体となり地域活動を進めており、月 1 回集まって相談している。「地域を良くするために始めたが、自分のためになっていることが分かった」という意見があった。 ● 奥野川では、ゲートボールを週 3 回実施しており、参加者が「いつもと違う」ことに気づき、体調不良者を早期に発見し、受診につなげることができた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域のちょっとした異変に「気がついてもどこに言ったらいいか分からない」という意見があった。 ● 「悩みを一人で抱え込んでいる人も多いのではないか」「SOS は出しているはず、寄り添わないと発信できないのではないか」という意見があった。
次期計画	<ul style="list-style-type: none"> ● 第 1 期活動計画の基本目標である「知ることからはじめよう」「つながりづくりをしよう」「みんなで支え合おう」を通して、「自分らしく生きる」ことにつながっているため、次期計画では「自分らしく生きる」を基本目標から外し、他の目標で課題への対応を行うこととする。

第3章

地域福祉推進のための実施計画

みんななかよし



Ⅰ 松野町地域福祉活動計画（全体計画）

（Ⅰ）基本理念

いまある支え合いを大切に 自分たちでまちづくり

松野町には、受け継がれてきたご近所同士のつながりや、お互いさまの支え合いがあります。さらに、活動計画を推進してきた5年間で、「一人ひとりが幸せに暮らせる地域」について考え、今の松野町に必要な取り組みが生み出され、住民の皆さんの主体的な地域づくりにつながってきています。

今後さらに、この支え合いを広げていきながら、一人ひとりが「自分たちのこと」として地域づくりに関わっていくことを目指し、Ⅰ期目からの基本理念を継承し、発展させていくこととしました。

（Ⅱ）基本目標

1 知ることからはじめよう

自分たちの住む地域の人や活動、課題などを知ることや、課題解決のための様々な福祉情報を得られるよう情報共有の取り組みや、地域や人を思いやり、共に生きる力を育む福祉学習の推進をしていきます。

2 つながりづくりをしよう

だれもが孤立することなく、地域で暮らしていくためには、地域の拠点や日常的な見守り・声かけなどを通して、地域とつながることが大切です。住民の皆さんの興味・関心を活かしたコミュニティやネットワークづくりに取り組みます。

3 みんなで支え合おう

地域のコト・ヒト・モノを知ることや、お互いに関心を持ち、目に見えにくい困りごとやSOSにも気づき、受け止められるような地域づくりに向けた支え合い活動や、分野を越えて横断的に相談・解決できるような仕組み作りに取り組みます。

これらのことを通して、「自分らしく生きる」取り組みを推進していきましょう。

(3) 計画の体系と活動方針



基本目標 Ⅰ

知ることからはじめよう!

活動方針 (1) 福祉情報を発信しよう!

活動方針 (2) 福祉学習を進めよう!

取り組みについて

なぜ?

どんなこと?

だれもが自分らしく安心して暮らせる地域づくりを進めるには、一人ひとりが自分たちの暮らす地域に関心を持ち、郷土愛を育みながら、様々な世代や背景の異なる住民全てが「気にかけて合う存在」として意識することが大切です。

そのために、一人ひとりが自分の住んでいる地域や福祉に関心を持てるよう、広報啓発活動と併せて、多くの人を楽しい活動を通じて知り合い、地域の情報を共有できる機会を設け、地域のコトや活動、地域に住むヒトのことなどの理解を深めるための気づきと学びの場づくりに取り組みます。

地域住民の心がけ

- 無理のない範囲で地域活動などに参加してみましょう。
- お互いに「対話」することを大切にしましょう。
- 地域のいいところ探しをしてみましょう。

社協が目指すこと

- 地域の福祉情報や地域活動をより広く発信するために、社協だよりやホームページの充実のほか、SNSの活用についても進めていきます。
- 全職員が担当業務において、情報収集・発信に努めます。
- 全職員がサロンや住民の地域活動等に参加し、住民の皆さんと情報共有しやすい関係性の構築に取り組みます。
- 推進委員会や地域活動等で、住民の皆さんと地域の理解を深める福祉学習に取り組みます。また、学校とも連携し、多世代の交流・学びの機会づくりに取り組みます。

基本目標 2

つながりづくりをしよう!

活動方針 (1)

交流・活躍の場をつくろう!

活動方針 (2)

見守り・見守られ上手になろう!

取り組みについて

なぜ?

どんなこと?

だれもが自分らしく安心して暮らせる地域づくりを進めるには、「支え手」「受け手」という関係ではなく、全ての人々が役割と生きがいを持って地域の活動に参加することが大切です。

そのために、だれもが気軽に参加・活躍できる機会やしくみをつくとともに、地区ごとに昔ながらのつながりを活かして、回覧板やあいさつを通じて緩やかな見守り活動につなげ、日頃からの顔の見える関係づくりから、災害時などのいざという時も助け合える地域づくりを進めます。また、地域活動や日常的な声かけなどのつながりを通して関わることで、信頼関係が深まり、様々な気づきが生まれます。

地域住民の心がけ

- ご近所さんや地域の人とあいさつをしよう。
- 昔ながらのつながりを大切にし、続けていきましょう。
- 集まらなくてもつながる方法や、できる活動について考えよう。
- 災害の時どうするのか、家族や友人、地域ぐるみで考え、話してみましよう。

社協が目指すこと

- 集まらなくてもつながる方法やできる活動について住民の皆さんと一緒に検討します。
- 個人情報の意味や目的、プライバシーへの配慮について地域全体で共通認識が持てるような取り組みをします。
- 「支えられるだけの存在でなく、役割のある存在」という視点が持てるような取り組みをし、地域活動に参加しやすい環境づくりを行います。
- 地域で交流する機会等で、災害時の取り組みに参画し、地域のつながりを強化します。

基本目標 3

みんなで支え合おう！

活動方針 (1)

「お互いさま」の活動をしよう！

活動方針 (2)

一人ひとりの生活と思いを大切にしよう！

取り組みについて

なぜ？

どんなこと？

だれもが自分らしく安心して暮らせる地域づくりを進めるには、ちょっとした困りごとをご近所で支え合える仕組みづくりや、生活のしづらさを感じている方の生活背景や価値観などを理解することが大切です。

そのため、声かけや緩やかな見守り活動を通じて、いつでも困ったことが相談できる、SOS が出しやすい地域づくりを住民主体で進められるよう、地域活動の担い手づくりに取り組んでいきます。また、困りごとを支える活動だけでなく、「こんなことしたい」という思いを支える活動にも取り組みます。

地域住民の心がけ

- 自分の趣味や特技を地域活動に活かしましょう。
- 健康づくり・楽しみづくりをしよう。
- できることを、できるだけ。
- だれでもいつでもできる支え合いは、思いやりを持つことです。

社協が目指すこと

- 興味ある活動や参加しやすい活動から、地域に関心が持てるよう、地域活動の担い手づくりに取り組みます。
- 全職員が担当業務において、「こんなことしたい」をサポートする取り組みを目指します。
- 多くの人が参加できる、地域ぐるみの仕組みになるよう支援します。
- 社会的孤立や複合化・複雑化する生活課題に対応できるよう、地域資源のネットワークの拡充を図り、気になる方の早期発見につなげます。

2 地区福祉活動計画

地区福祉活動計画は、地域の特色を生かして、10地区それぞれの小地域活動計画となっており、自分たちの身近なところから地域づくりに取り組んでいくものです。各活動計画の、「この思いを大切にしたいから」を共通認識として推進していきます。

地区ごとの活動計画を推進していくことで、町の全体計画の目標を達成し、町全体をより良くしていきます。

また、地区ごとの課題やニーズを整理しながら、町全体で取り組むべき活動につなげていきます。



【地区の状況の変化】

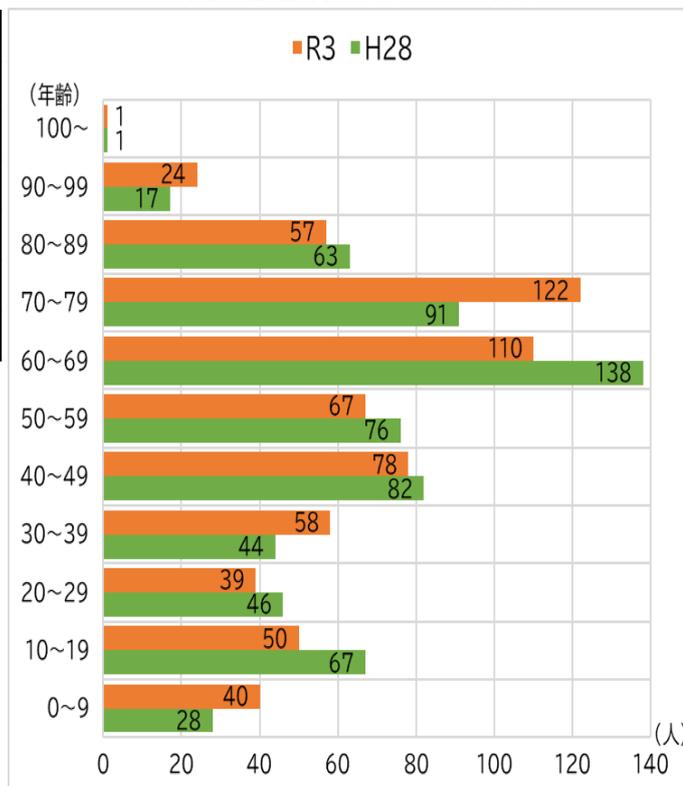
R3

人口	646人
子ども率	13.5%
高齢化率	41.4%
世帯数	335世帯
ひとり暮らしの高齢者数	63人
民生委員・児童委員の数	4人
サロンの数	0ヶ所

H28

人口	653人
子ども率	13.6%
高齢化率	37.6%
世帯数	330世帯
ひとり暮らしの高齢者数	52人
民生委員・児童委員の数	4人
サロンの数	0ヶ所

年齢階層別人口の移り変わり



【地区で見つけた変化】

5年前を振り返りながら、地域の状況がどのように変化したのかや、地区でちょっといい感じになったことを見つけよう！

- ・かれん会は毎月第2土曜日に集まることを続けてきた。
- ・地域を良くするために始めたが、自分のためになっていることが分かった。
- ・老人クラブが復活した。
- ・コロナで訪問しづらい状況が続く中、つながりを増やすこと、つながりの必要性を感じた。
- ・活動計画と地区のことを一体的に取り組んだ方が良いということが分かった。
- ・団体や年代それぞれで活動するのではなく、子どもから高齢者までつなげていく必要性を感じた。
- ・動けるネットワークがほしい。
- ・お気楽会を地域の人と一緒に悩み考える場にしたい。

私たちが続けること！**<取り組み1> 情報発信をする！**

活動内容：

- ① コミュニティ放送を活用する。
朝晩の発信で、発信したい人が団体を通じて行う。
- ② チラシを回覧して、情報発信する。

この思いを大切にしたいから：

みんなで活動の思いや内容を共有できる。活動の共通理解をしたい。
自分の住んでいる地区のことを知って、ひとり一人が考えられるようになったらいい。

<取り組み2> 災害に強い地区にする！

活動内容：

- ① 避難訓練をするための体制づくりについて話し合いをする。
 - ・防災士による研修を行う。
 - ・各団体の役割分担を考える。
- ② 地区での防災訓練を定着させる。
 - ・組ごとに集合場所に集まる。(地震:防災の日、水害:梅雨前5月)
 - ・集合した避難先で反省会をする。
 - ・名簿、チェックシートを作る。(集まった人、集まりにくかった人等)
- ③ 訓練を通じて、非常食づくりなど、学びの場をつくる。

この思いを大切にしたいから：

隣近所のことを把握して、みんなが安全、安心して暮らせるようにしたい。

<取り組み3> 各団体のネットワークづくり！

活動内容：

- ① 各団体の基地にするため、空き家の確保について考える。
- ② 既存の会議を活用して、団体間の情報共有をし、一緒に活動する。
- ③ かれん会のお手伝いさんをつくる。
- ④ かれん会でお買い物ツアーを企画してみる。

この思いを大切にしたいから：

つながりづくり、活動の場づくりをしたい。各団体の情報を密にして、役割分担しながら、共通体験を作ることで、支え合いの大切さに気付いてもらいたい。自分たちの活動が将来の自分のためになってほしい。

悩みを気軽に言い合える場にしたい。

【地区の状況の変化】

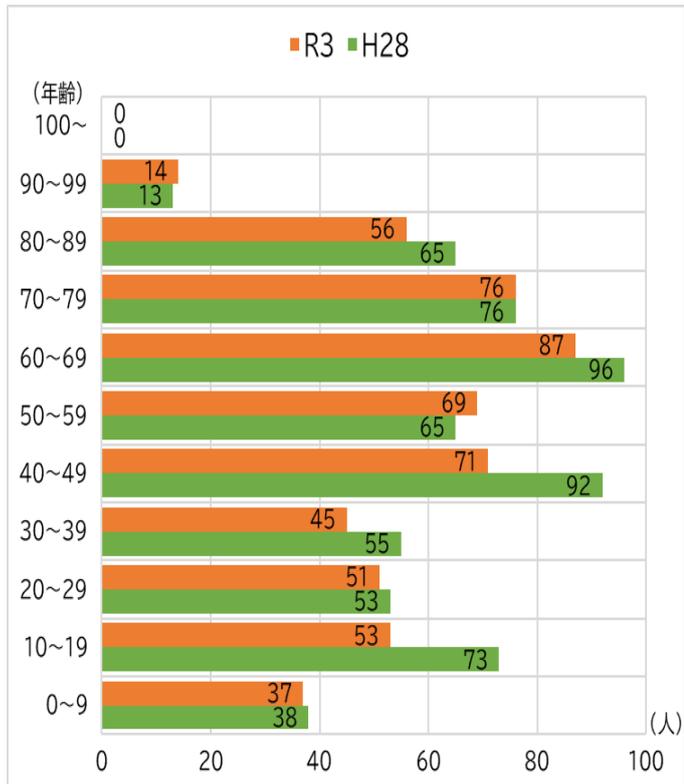
R3

人口	559人
子ども率	14.7%
高齢化率	35.9%
世帯数	268世帯
ひとり暮らしの高齢者数	31人
民生委員・児童委員の数	2人
サロンの数	3ヶ所

H28

人口	626人
子ども率	17.4%
高齢化率	30.9%
世帯数	275世帯
ひとり暮らしの高齢者数	16人
民生委員・児童委員の数	2人
サロンの数	0ヶ所

年齢階層別人口の移り変わり



【地区で見つけた変化】

5年前を振り返りながら、地域の状況がどのように変化したのかや、地区でちょっといい感じになったことを見つけよう！

- ・学生がいなくなった(古井谷) ・少子化により子どもの声が聞けない(五郎丸)
- ・転居してきた若い人が増えた。子供が増えた。
- ・コーポや若者住宅は組つきあいに入っているのか分からない。
- ・活動が低下(コロナの影響?)で情報が入らない。 ・定例の常会がない。
- ・コロナで女性の会が休会し、情報が入りにくい。
- ・女性の集まりは増えてきている。(1→3グループ)
- ・ひとり暮らしの高齢者が増えてきている。 ・高齢化率アップしている。
- ・ひとり暮らしの高齢者が施設に入所した。
- ・卓球クラブは週2回している。
- ・コミバスはアンケート調査して必要な高齢者がいれば運行してほしい。
- ・のびのびの新聞は継続している。 ・のびのびの新聞を楽しみにしている人が増えた。

<取り組み1> 延野々内の交流を深めよう！

活動内容：

- ① 顔見知りになるために、あいさつをする。
- ② サロン、卓球、ゲートボール、ラジオ体操、伝統行事などに参加して皆と交流する。
- ③ シャベリ場(機会)をつくるために、虹の森公園や集会所を活用する。

この思いを大切にしたいから：

皆で交流することで、人との関係性が構築され、結束力が強くなり、地域が活性化し、若者が地元に戻ってきやすくしたい。

<取り組み2> 環境美化活動を続けよう！

活動内容：

- ① 花いっぱい運動をしよう。
- ② 清掃活動を続けることで、住民に安心安全な地域づくりを自分事として捉える気持ちを育てる。
- ③ 耕作放棄地を、行政を巻き込んでどうにかしたい。

この思いを大切にしたいから：

環境を良くし、住みやすい、住みたい地域にしたい。
子ども達が安全に登下校できるようにしたい。

<取り組み3> のびのびの新聞を作り続ける！

活動内容：

- ① 年4回の発行を続ける。
- ② 記事の内容を豊富にするため、記事提供者を募り、広げていく。
- ③ きずなポストを活用できるよう働きかける。
- ④ 見守りを兼ねて、のびのびの新聞をもれなく配る。

この思いを大切にしたいから：

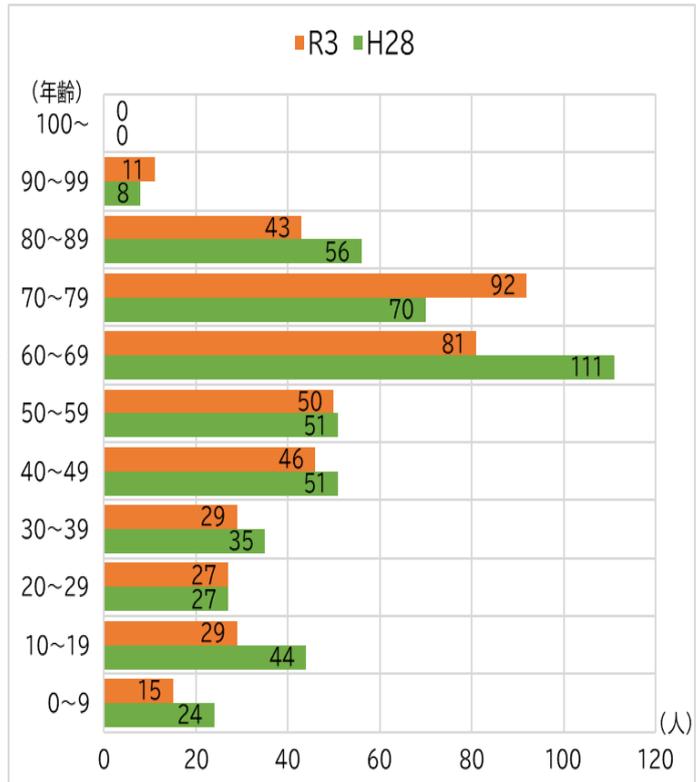
地区のことが分かるようになり、情報共有ができ、緊急時の時にも助け合いができるようにしたい。住民一人ひとりが、地域を良くしたいという気持ち育てたい。

【地区の状況の変化】

R3

人口	423人
子ども率	9.7%
高齢化率	46.5%
世帯数	206世帯
ひとり暮らしの高齢者数	43人
民生委員・児童委員の数	2人
サロンの数	1ヶ所

年齢階層別人口の移り変わり



H28

人口	477人
子ども率	12.8%
高齢化率	40.2%
世帯数	217世帯
ひとり暮らしの高齢者数	29人
民生委員・児童委員の数	2人
サロンの数	1ヶ所

【地区で見つけた変化】

5年前を振り返りながら、地域の状況がどのように変化したのかや、地区でちょっといい感じになったことを見つけよう！

- ・ひとり暮らしが増えた。
- ・子どもの数減少。
- ・5年経つと一気に80歳代が増える。
- ・支える人たちの数が減る(今後…)→現実を可視化すること大事！
- ・地区の役をしてないと把握できないことがある。地区全体のことが分かるようになった。
- ・空き家を貸す側、借りる側、各々の理由がある。
- ・3世代で集まり、交流ができた。
- ・老人クラブと子ども会の交流(昔の遊び)ができた。

<取り組み1> 災害への備えを日々の暮らしの中で行おう！

活動内容：

- ① 消防団を中心に、独居の方などのマップ作りを行う。
マップが完成したら、各戸に配布したい！
- ② マップ作りのため、独居の方などの情報共有をする。
- ③ 回覧板などを通じて、さりげない見守りを続ける。
- ④ 見守られるだけじゃなくて、「元気アピール」をする。

この思いを大切にしたいから：

高齢者・独居・障害者の方々が災害時に取り残されないようにしたいから。
地区住民みんなが、安心して安全に暮らしたいから。

<取り組み2> 老若男女が交流できる集まりをつくろう！

活動内容：

- ① 地区の清掃活動や亥の子、3世代交流、脱線グループ、老人クラブの活動を続けて行う。
- ② 友愛訪問を子ども達と一緒にできたらいいな…
- ③ カローリングを子どもと高齢者でできたらいいな…
- ④ 集まりの場に参加しづらい人や町外に出ている人にも、ケーブル TV や SNS を活用して、活動を発信できたらいいな…

この思いを大切にしたいから：

人とのつながりを持つことで、困りごとを発信しやすくしたい。
子ども達に、幼い頃の思い出をたくさん作ってあげたい。

【地区の状況の変化】

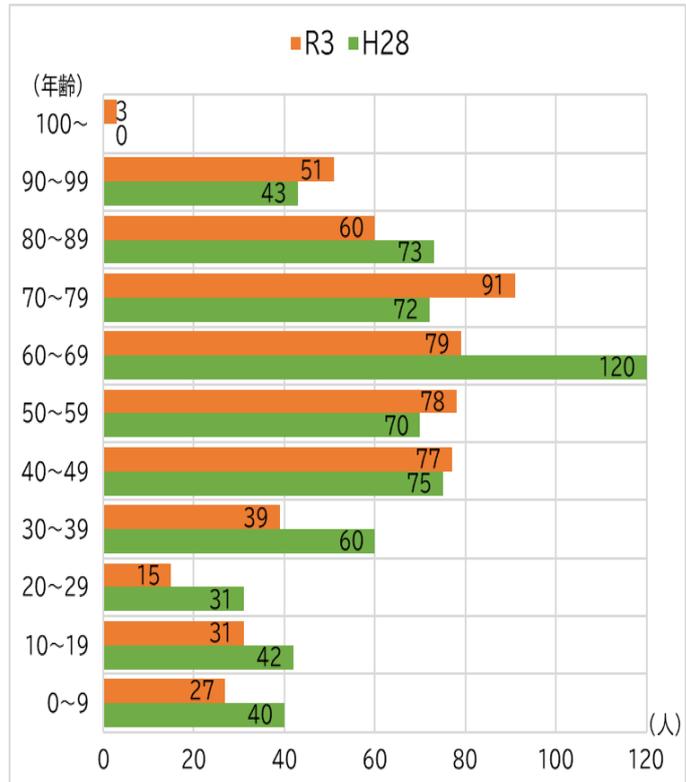
R3

人口	551人
子ども率	10.0%
高齢化率	46.8%
世帯数	369世帯
ひとり暮らしの高齢者数	27人
民生委員・児童委員の数	2人
サロンの数	1ヶ所

H28

人口	626人
子ども率	12.3%
高齢化率	40.0%
世帯数	391世帯
ひとり暮らしの高齢者数	20人
民生委員・児童委員の数	2人
サロンの数	1ヶ所

年齢階層別人口の移り変わり



【地区で見つけた変化】

5年前を振り返りながら、地域の状況がどのように変化したのかや、地区でちょっといい感じになったことを見つけよう！

- ・サロン活動は活発になっている。コロナで集まれない時、交換日記のようなものをみんな回していた。
- ・弁当を作ってご近所へ声かけしながら配った。
- ・移動販売車が来た時、「行かんかな」と声かけし、安否確認になっている。
- ・男性の集まりで、2ヶ月くらい前からカラオケをしている。
- ・青年部は維持、継続している。
- ・企業誘致事業者から、豊前地区に協力金をいただいた。
- ・町外から隣りに引っ越して来られたが、どんな人か分からない。
- ・豊前地区の活動計画のキャッチフレーズを印刷した封筒を作って、住民に文書を送付している。活動計画をみんなに周知できる。

私たちが続けること！

<取り組み1> 世代間交流の機会を増やしたい！

活動内容：

- ① 地域行事の継続、復活や新たな行事を企画する。
 - 【継続】クリスマス会、カラオケ大会、伝統行事など
 - 【復活】牛鬼、亥の子
 - 【新企画】まきわり体験、避難訓練、ピザ窯づくり、企業見学
- ② 老人クラブ、サロン、青年部など各種団体と連携して実施する。

この思いを大切にしたいから：

交流することで、楽しみや役割づくりができ、生きがいづくりにつながってほしい。

子どもたちに、地区の思い出を持った大人になってほしい。

子どもたちが参加すれば、将来の担い手につながるのでは？

<取り組み2> 地域の情報を知りたい！

活動内容：

- ① 年2～3回、地域の情報を情報誌の発行、SNS で発信する。
- ② 地区の役員の紹介や行事の周知などする。
- ③ 各種団体ごとの行事の際には、写真を提供してもらう。

この思いを大切にしたいから：

写真を掲載する、文字を大きくするなど分かりやすい内容とする。

地区のことや団体の活動を知ってもらうことで、関心を持ってもらい、主体的に地域づくりに関わってもらいたい。各種団体の会員確保にもつなげたい。

<取り組み3> 地域の特産品を開発したい！

活動内容：

- ① 地域のおいしいものを再確認し、新たな特産品を開発するとともに、遊休施設を有効に活用する。
- ② 分館行事と絡め、勉強会の開催や、遊休施設の利用計画を策定する。

この思いを大切にしたいから：

地域の資源を再確認し、交流を深めることで、地域に誇りを持ちたい。

【地区の状況の変化】

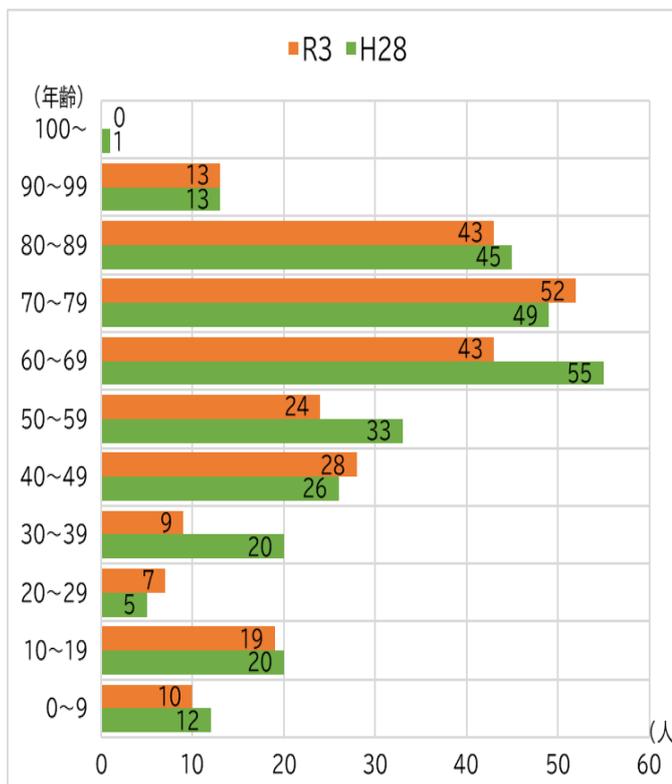
R3

人口	248人
子ども率	10.1%
高齢化率	52.4%
世帯数	122世帯
ひとり暮らしの高齢者数	35人
民生委員・児童委員の数	2人
サロンの数	2ヶ所

H28

人口	279人
子ども率	10.8%
高齢化率	49.1%
世帯数	119世帯
ひとり暮らしの高齢者数	9人
民生委員・児童委員の数	2人
サロンの数	1ヶ所

年齢階層別人口の移り変わり



【地区で見つけた変化】

5年前を振り返りながら、地域の状況がどのように変化したのかや、地区でちょっといい感じになったことを見つけよう！

- ・サロンが1ヶ所から2ヶ所に増えた。
- ・サロンで送迎しているので、高齢の方も参加してもらえるようになった。
- ・老人クラブで花のプレゼントをした。
- ・「援農会」で草刈りをしている。
- ・中山間と区長と若手の後継者組でコスモスを植えた。
- ・去年の推進会で中学生と交流、意見交換した。つながりの必要性をみんなで話した。
- ・中学生と一緒にお茶づくりをした。
- ・中学生にシトラスリボンのことを教えてもらい、地域に広めた。
- ・三世代交流を続けている。
- ・コロナでも活動は増えている。

私たちが続けること！

<取り組み1> 色んな世代一緒に地域活動をする！

活動内容：

- ① 老人クラブ、サロン、分館、三世代交流を続ける。
- ② 子どもたちへのあいさつを続けて、顔見知りになる。
- ③ 三世代交流で、子どもたちの親世代とも交流し、つながりをつくる。
- ④ 既存の活動を通じて、活動のサポーターづくりをする。
- ⑤ 世代間交流を兼ねて、学校の取組みと協働する。

この思いを大切にしたいから：

皆で集まって、楽しみながらつながりを持ちたい。つながりをつくって、困った時や災害時に助け合える地域にしたい。

色んな人が活動に参加することで、地域の活動を知ってもらい、協力者を増やし、皆で地域づくりをしたい。

<取り組み2> 困りごとを解決につなげよう！

活動内容：

- ① 援農会の活動を継続する。
- ② 地域活動を通じて、交流し、困ったことを言いやすい関係性をつくる。
- ③ 特技を持っている人を、発掘する。
- ④ 子どもたちにラインの使い方を教わり、情報発信にも活用する。
- ⑤ 情報を必要な人に届けるための方法を検討する。
(富岡地区のエコマップづくりとか)

この思いを大切にしたいから：

困りごとを一人で抱え込まないよう、支え合う体制をつくりたい。

安心して暮らせる地域になってほしい。

皆に役割があり、元気に暮らせる人が増えてほしい。

<取り組み3> キレイな富岡をつくろう！

活動内容：

- ① コスモスや彼岸花など季節の花植えを継続する。
- ② 学校の取組みとも協働し、清掃活動を続ける。

この思いを大切にしたいから：

花植えなどの活動を通じて、つながりや楽しみをつくりたい。

きれいな地区をつくることで、皆の誇りになってほしい。

上家地

キャッチフレーズ (こんな地区だったらいいな)

人にやさしい小さな集落

【地区の状況の変化】

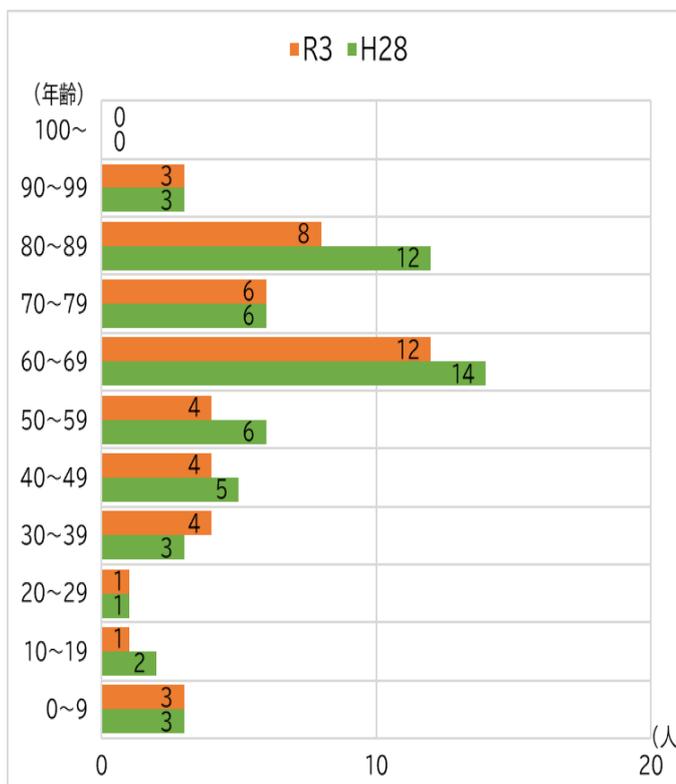
R3

人口	46人
子ども率	8.7%
高齢化率	58.6%
世帯数	25世帯
ひとり暮らしの高齢者数	6人
民生委員・児童委員の数	1人
サロンの数	0ヶ所

H28

人口	55人
子ども率	7.3%
高齢化率	47.2%
世帯数	27世帯
ひとり暮らしの高齢者数	6人
民生委員・児童委員の数	1人
サロンの数	0ヶ所

年齢階層別人口の移り変わり



【地区で見つけた変化】

5年前を振り返りながら、地域の状況がどのように変化したのかや、地区でちょっといい感じになったことを見つけよう！

- ・地域の状況がよく分かっている。 ・緊急時もすぐ伝わる。
- ・隣近所の付き合いがある。(見守り、ゴミ出し、助け合い)
- ・昔ながらのお付き合いが続いている。
- ・行事は変わらず続けている。高齢者でもできること、役割がある。
年1回のお祭り、集会所に花の苗植え継続中。地区で追加して購入し、ゴミステーションの近くの人に植えて管理してもらっている。地区に5か所、つながりができる。
- ・町道の草刈りを年2回、全員参加で実施。無理な人は、地区外の子供さんが参加。
- ・継続できていることが素晴らしい。
- ・孫が来るようになった。 ・子供が増えた。2人→4人
- ・人が減った。40歳・50歳代の人がいらない。
- ・付き合いが減った。 ・高齢で隣近所に行きづらい。

<取り組み1> 地域で花苗を育てる

活動内容:

地区内5か所のゴミステーション付近を中心に花を育て、環境美化を行う。

この思いを大切にしたいから:

年齢に関係なく、だれもが参加できる活動を継続して、役割を大切にする。

<取り組み2> 集る機会を増やし、交流を深める

活動内容:

地域行事を継続する。

この思いを大切にしたいから:

若い世代の参加を増やし、上家地地区の地域活動を続けていきたい。

<取り組み3> お互い気兼ねなく助け合うことができるようにする

活動内容:

高齢者への買い物支援(車を出して一緒に買い物するなど)

この思いを大切にしたいから:

お互い無理のない範囲での助け合いを続けていきたい。

目黒

キャッチフレーズ（こんな地区だったらいいな） みんなで話し合うことのできるふるさと目黒

【地区の状況の変化】

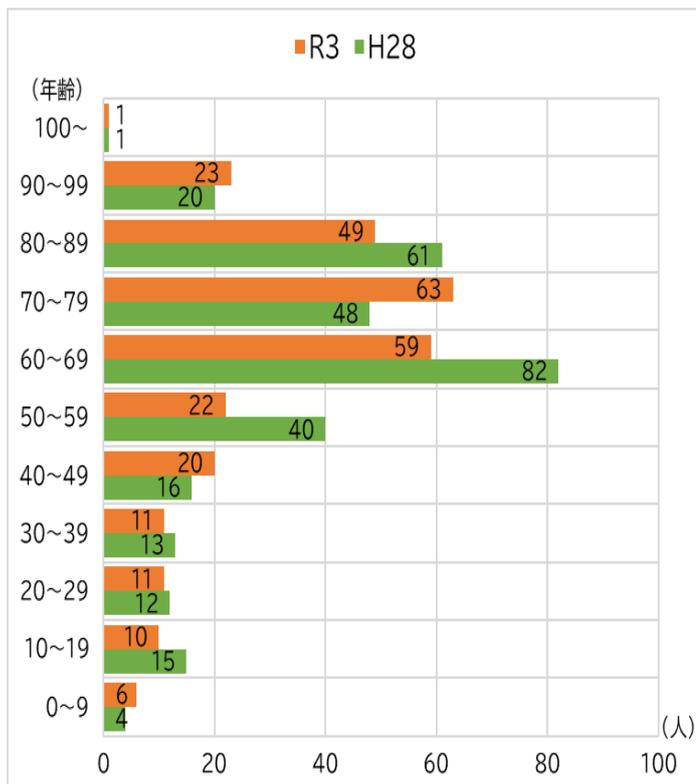
R3

人口	275人
子ども率	5.5%
高齢化率	60.7%
世帯数	154世帯
ひとり暮らしの高齢者数	39人
民生委員・児童委員の数	2人
サロンの数	0ヶ所

H28

人口	312人
子ども率	5.8%
高齢化率	56.4%
世帯数	165世帯
ひとり暮らしの高齢者数	32人
民生委員・児童委員の数	2人
サロンの数	0ヶ所

年齢階層別人口の移り変わり



【地区で見つけた変化】

5年前を振り返りながら、地域の状況がどのように変化したのかや、地区でちょっといい感じになったことを見つけよう！

- ・サンクレアさんが来てもらったおかげで空き家利用してもらい、若い人が増えた。
- ・若い人が増加した。
- ・家族構成が変わった。
- ・仕事をやめた。
- ・空き家が増えた。
- ・田んぼをして、稲作、稲木をした。
- ・組内に入った。

<取り組み1> 地域活動・伝承文化の継続と発展

活動内容:

- ① 地区、公民館、アイブラック、老人クラブ、にこにこ会、消防団など地区内の色んな人や地元企業が関わって地域づくりをする。
- ② 亥の子や牛鬼の継承、神社や寺の行事の継承。
- ③ 南小の活用。
- ④ コロナ禍のイベント等取り組み方法について検討、工夫する。
- ⑤ にこにこ会の活動の見直しをする。

この思いを大切にしたいから:

地域内外、移住者など色んな人と関わり地域づくりをすることで、地域を元気にし、活気ある地域にしたい。

世代間交流を通して、子どもの笑顔が高齢者の生きる力になってほしい。

<取り組み2> 目黒の自然環境の保全

活動内容:

- ① ホタルの畦道のイベントを続ける。
- ② 花いっぱい運動や地域全体の環境美化活動を行う。
- ③ 目黒の名所や自然、魅力あるスポットの掘り起しと PR 活動。
- ④ 目黒体験ツアーの企画をする。(地元企業との連携など)

この思いを大切にしたいから:

目黒の誇りや良さを若い世代に残したい。

目黒をアピールして定住につなげたい。

<取り組み3> 人口減少対策

活動内容:

- ① 空き家の活用を継続して考える。
- ② 農業の担い手を確保する。
- ③ 買い物対策を考える。

この思いを大切にしたいから:

住みやすい地域にして、目黒の組織を存続させたい。

吉野

キャッチフレーズ（こんな地区だったらいいな）

いきいき吉野（I I Y）

【地区の状況の変化】

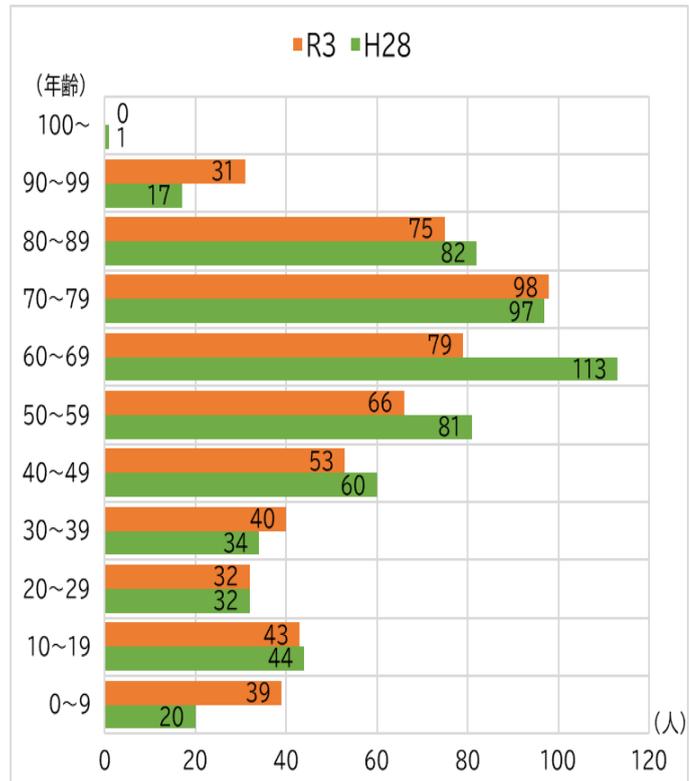
R3

人口	556人
子ども率	14.4%
高齢化率	43.7%
世帯数	265世帯
ひとり暮らしの高齢者数	50人
民生委員・児童委員の数	2人
サロンの数	1ヶ所

H28

人口	581人
子ども率	10.5%
高齢化率	45.9%
世帯数	273世帯
ひとり暮らしの高齢者数	37人
民生委員・児童委員の数	2人
サロンの数	0ヶ所

年齢階層別人口の移り変わり



【地区で見つけた変化】

5年前を振り返りながら、地域の状況がどのように変化したのかや、地区でちょっといい感じになったことを見つけよう！

- ・H30 豪雨災害により防災意識が高まった。
- ・移住者(協力隊、沖縄など)が増えた。
- ・子どもが増えた。
- ・イベントを立ち上げるようになった。
- ・沖縄フェスやった!! クリスマス会盛り上がった。
- ・元区長の倉庫がボクシングをする人達の活動場になり、そこでまた交流が生まれた。
- ・移動販売車が増えた。高齢者が喜んでいる。
- ・ゴミのポイ捨てが減ったように感じる。
- ・移住して4年、この4年で地域の人顔やコトをたくさん知れた。人とのつながりを感じた。
- ・田の管理状況が変わった。(太陽ファームが営農)

<取り組み1> 吉野交流センターを利用した交流の場づくり

活動内容:

- ① スポーツ活動や文化活動、子育て支援等を行うために、自由に集える機会を定期的に設ける。

この思いを大切にしたいから:

人の交流が増え、活気ある地域にしたい。
楽しみの選択肢を増やし、やりたいことができるようになり、みんなが生き生きと暮らせる地域になってほしい。

<取り組み2> 空き店舗を活用したサロンの運営

活動内容:

- ① 空き店舗を整備し、おしゃべりできる場をつくる。(IIYサロン)
- ② 誰が何をするのか、役割分担を検討する。

この思いを大切にしたいから:

人とのつながり、コミュニケーションを大切にしたい。
コミュニティを作ることで、安心して暮らせる地域にしたい。

<取り組み3> 伝統文化を残し、伝える！

活動内容:

- ① 継承者を絶やさないように、次の祭りで動画等を作成する。
- ② 発信すると同時に継承していく。

この思いを大切にしたいから:

文化を継承し、吉野の良さを発信することで、郷土愛を育む。
吉野地区に誇りを持つ人を増やしたい。

藤生

キャッチフレーズ（こんな地区だったらいいな） “おたがいさま”でわらびの里づくり

【地区の状況の変化】

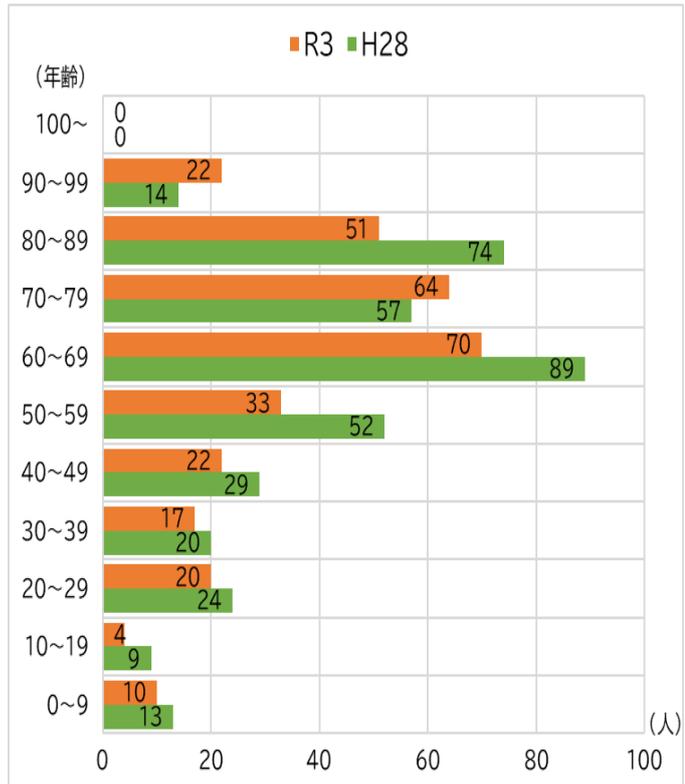
R3

人口	313人
子ども率	4.5%
高齢化率	57.8%
世帯数	169世帯
ひとり暮らしの高齢者数	34人
民生委員・児童委員の数	2人
サロンの数	3ヶ所

H28

人口	381人
子ども率	5.0%
高齢化率	50.1%
世帯数	177世帯
ひとり暮らしの高齢者数	18人
民生委員・児童委員の数	2人
サロンの数	3ヶ所

年齢階層別人口の移り変わり



【地区で見つけた変化】

5年前を振り返りながら、地域の状況がどのように変化したのかや、地区でちょっといい感じになったことを見つけよう！

- ・鈴井に赤ちゃんが産まれた！
- ・7~8人亡くなった。
- ・世代交代した。
- ・協力隊の人が残ってくれた。
- ・お茶を出荷する人が居なくなった。真土のお茶工場がなくなった。(R2~)
- ・紅茶ができた。
- ・コロナで集まりができなかった。
- ・川がキレイになった。カニがとれた。今年アユがたくさんとれた。
- ・3年前被災した。

<取り組み1> 地区全体で防災訓練を行い、防災意識を高める！

活動内容：

- ① 防災訓練について、みんなで集まり、周知、確認する。
- ② ウォーキングしながら避難経路や危険箇所の確認をする。
- ③ 蕨生いいところ巡り+ハザードマップ作り+健康づくりを行う。
(子どもたちにもハザードマップ作りに参加してもらう。)
- ④ 地域食堂など活用して、消火器の使い方等初期消火の訓練を行う。

この思いを大切にしたいから：

災害時にだれも取り残されないように、平時からつながりを持ちたい。
楽しみながら活動を始めて、色んな世代に関心を持ってもらいたい。

<取り組み2> 地区全体で世代をこえたつながりをもつ！

活動内容：

- ① コロナの中でもできる工夫を考え、地域食堂を復活させたい。
(デリバリー地域食堂とか)
- ② 回覧板を通して、つながり、声かけを続ける。おへやにも！
- ③ 地域行事やサロン活動を続けて交流の機会を持つ。

この思いを大切にしたいから：

どんな時でもつながりを持ちたい。
人とつながることで、ほかの人の考え方や思いを知ることができ、困った時に助け合いたい。
地域食堂の活動を通じて、みんなに役割があり、だれもが地域の一員であると感じてもらいたい。

奥野川

キャッチフレーズ（こんな地区だったらいいな） 小さくてもキラッと光り続ける“億野川”

【地区の状況の変化】

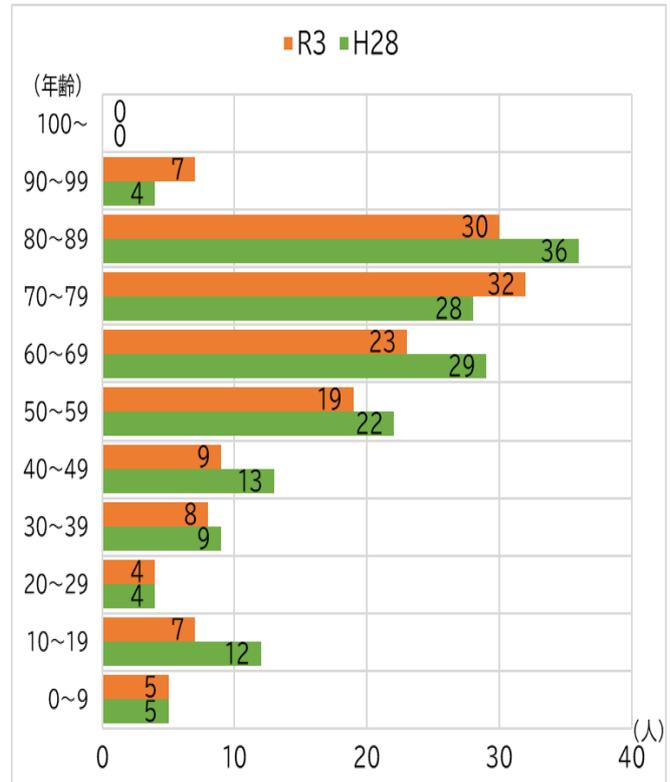
R3

人口	144人
子ども率	7.6%
高齢化率	53.4%
世帯数	74世帯
ひとり暮らしの高齢者数	18人
民生委員・児童委員の数	1人
サロンの数	2ヶ所

H28

人口	162人
子ども率	9.3%
高齢化率	54.3%
世帯数	70世帯
ひとり暮らしの高齢者数	8人
民生委員・児童委員の数	1人
サロンの数	0ヶ所

年齢階層別人口の移り変わり



【地区で見つけた変化】

5年前を振り返りながら、地域の状況がどのように変化したのかや、地区でちょっといい感じになったことを見つけよう！

- ・男性の秘密のサロン、コロナ関係なく、行事と合わせて行っている。
- ・むくの会サロンを月1回継続している。
- ・ゲートボール場の整備を区長がしてもらって、火、木、土に男女11名ではじめた。
- ・閉じこもりがちな人もゲートやサロンに来て、少なくなった。
- ・ゲートに参加した時、体調不良者を早期に発見できた。
- ・ゲートやサロンに来ることで、みんな仲良く話ができ、楽しみが増え、元気になった。
- ・だんなさんがゲートに行くようになって、自分の自由な時間が増えてうれしい。
- ・ラジオ体操を継続している。3年前、表彰された。
- ・体育部長を作ってはどうか？
- ・地区の清掃活動を継続している。 ・県道の改修が進んで快適になった。
- ・Uターン3軒、Iターン2軒、跡取りさんが戻ってきた。里帰りの人も多くなってきた。

私たちが続けること！

<取り組み1> 楽しみを続け、ひとり一人のキラリを磨く！

活動内容：

- ① 集まりごとにラジオ体操を続ける。
- ② ゲートボールの輪を子どもたちにも広げ、世代間でも交流する。
- ③ 男女のサロンで交流を深める。
- ④ 夫婦、家族仲良く、趣味を楽しむ。
- ⑤ ちょっとした困りごとは地域で助け合い、それでも難しいことは社協に相談しよう。

この思いを大切にしたいから：

集まりに参加することで、楽しみや交流ができ、安否確認にもなり、安心して暮らせる地域にしたい。

<取り組み2> 清掃活動を続け、景観を守る！

活動内容：

- ① 天の会、分館、町、組、個人で清掃活動を続ける。
- ② 花いっぱい運動を続ける。
- ③ 危険個所も把握する。

この思いを大切にしたいから：

環境整備をして、安心して暮らせる地域にしたい。
明るくきれいな地域にしたい。

<取り組み3> 情報発信で奥野川自慢をする！

活動内容：

- ① 活動の写真を撮り、記録に残す。
- ② 若者の力を借りたい。(協力隊卒業した人とか)

この思いを大切にしたいから：

地域の良さ、誇れる地区を、みんなに知ってもらい、地域に関心を持ってもらいたい。

3 松野中学校生徒会 まちおこプロジェクト

まちおこ … まちおこしの略。

【目的】

- 地域の人と関わり、地域について深く学ぶことで、松中生の視野を広げる。
- 活動を通して、地域に愛着を持ち、松野町を誇り思う気持ちをはぐくむ。
- 自ら課題を見つけ、周囲に適切に働きかけて主体的に課題解決しようとする意欲や態度を育てる。

地域交流・地域貢献



各委員会で年に1度、
地域の人とつながり、
交流する場を作る。



地域が学校を、学校が地域をよりよくするもの

#「まちおこ」とは？

まちおこプロジェクト

「まちおこ」は、令和3年度から始まった生徒会活動の一環です。「地域とつながり、地域を盛り上げるまちおこし」を目的としています。令和3年度は生徒が0から考えた5つのプロジェクトを行いました。「まちおこし」を「まちおこ」と略し、「松中まちおこプロジェクト」という名前になりました。



↑プロジェクトリーダーによる
地域の方との「まちおこミーティング」

活動内容 (2020年度)

12月下旬	1 期目まちおこ終了
11月21日	人権委員会主催 「 100回分のロゼッタ 」
10月16日	学級委員会主催 「 毎朝の朝の1冊1作 」
8月23日	役員会主催 「 マツノタワープロジェクト 」
7月27日	広報委員会・総務委員会主催 「 何を聞くか、何を聞くか 」
7月26日	生活委員会主催 「 画題についての勉強会 」
4月下旬	まちおこ活動内容発表会
5月下旬	生徒総会での企画発表
4月下旬	第3回 まちおこミーティング (企画書の完成)
4月中旬	第2回 まちおこミーティング (内容の確定)
3月初旬	第1回 まちおこミーティング (構想の確定)
2月中旬	地域おこし協力隊と意見交換会
2月初旬	キックオフミーティング



さまざまな人との出会いを通して**生徒自身でつながり**を築っていく。
それは一人一人の**力**になり、**未来**につなげられます。
この**美しいふるさと**を**つなげていく**に私たちのプロジェクトです。

MBGS

More Beautiful School Goals
より美しい学校にするための13の目標

まちおこは、生徒総会で決定した、
「**美しい学校像**」
の目標に沿って活動しています。

- 1 あいさつや選挙ができる学校
- 2 社会に貢献する学校
- 3 やるべきことをしっかりする学校
- 4 元気な生徒がいる学校
- 5 みんなが利用しやすい環境がある学校
- 6 情報発信ができる学校
- 7 自分らしくいられる学校
- 8 理想が待てる学校
- 9 小さなことにも気づき考案できる学校
- 10 人情意識を持ち、一人一人を大切に思いやれる学校
- 11 きちんとした態度をとれる学校
- 12 健康意識を持つ生徒のいる学校
- 13 情報を通して生徒に寄り添う学校

生徒の声 (アンケート結果より)

- ・地域の方の話を聞き、交流ができて楽しかったです!
- ・町のみさんの温かさや、優しさを感じることができました。
- ・自分たちで考えて、企画して、実現するということができたので良かったです!

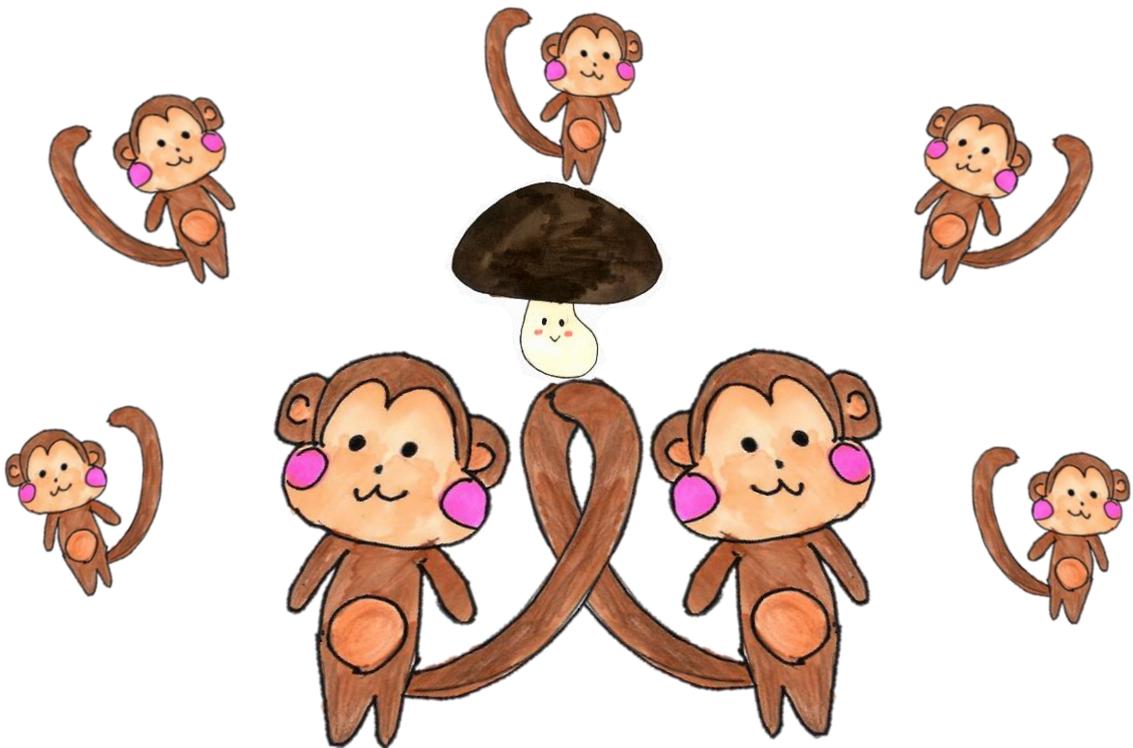
お世話になっている地域のみなさんへ

まちおこに協力していただいている
地域のみなさん、ありがとうございます!
これからもどうぞよろしくお願いします。

好きです! 松野 To Be Continued

第4章

今後の推進にあたって



1 計画の周知

計画を推進していくためには、地域住民をはじめ、ボランティア団体や福祉施設、関係機関等、様々な方々と協働していくことが必要となります。そのため、松野町社協のホームページや社協だよりなどで公表し周知を図ります。

また、より普及を図るため、各種事業などの様々な機会を通じて、理解と参加・協力を求めていきながら、地域への周知を図り、地域における主体的な活動を促進していきます。

2 計画の推進体制・進行の確認

地区の推進委員会を毎年度開催し、活動の進捗状況の確認や地域の状況・課題について共有し、今後の取り組みについて見直し・検討していきます。

地域福祉の推進度合いは、参加者数や参画団体数、会議や研修の回数など量的な視点から測られるだけでは十分とはいえません。

そのため、「一人ひとりが幸せに暮らせる地域」になったのかを評価するには、質的評価が重要になります。質的評価については、地区の推進委員会で、活動推進の結果どのくらい課題が解決されているか、またどのような効果が得られたのか、取り組みを通して住民参加や連携が進んでいるかなど、活動のふり返りにより地域アセスメントをすることで評価につなげます。

量的な評価については、町が策定している地域福祉計画との連携を図り、住民調査の結果を活用しながら評価を行っていきます。

3 かかわりのある主な社会資源（ヒト・団体・組織など）

● 推進委員

地区の活動計画を策定し、中心になって活動を推進していくことと、地区計画の評価・見直しをする役割があります。

活動は、自治会活動などと連携しながら、周りの人を巻き込みつつ、楽しみながら活動していく人です。

● ボランティア

社会問題の解決のために、「自分のできることを」「できる範囲で」「自らすすんで」行うことをいいます。ボランティアは、「助けてあげる」「～してあげる」という一方的な施してではなく、ボランティアを必要としている方と共に取り組む活動です。

● 生活支援コーディネーター

第1層は町全体を、第2層は日常生活圏域を対象に、地域の支え合い・助け合いを広め、関係機関のネットワークづくり、生活支援の担い手や必要な助け合い活動などを創り出し、つなげることを行います。

生活支援コーディネーターの活動には、住民の皆さんとの協働が欠かせず、推進委員会の活動と連携しながら行います。

● 地域包括支援センター

地域の高齢者の暮らしをサポートするために設けられている機関です。高齢者や家族、地域住民からの高齢者に関する困りごとの相談、制度・サービスの相談にも対応します。

● 策定委員

町全体の活動計画策定に関わり、地区の推進委員会で抽出された課題やニーズなどを全体計画に反映するための評価・見直しをする役割があります。

● 民生委員・児童委員

厚生労働大臣から委嘱を受け、地域の中で常に住民の立場に立って相談に応じ、必要な援助を行い、社会福祉の増進に努める方々であり、「児童委員」を兼ねています。また、児童問題を専門に担当する主任児童委員も配置されています。

松野町では現在 20 名の方が活動されています。

● ふれあい・いきいきサロン

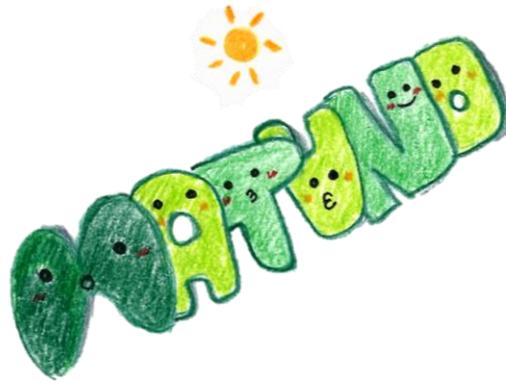
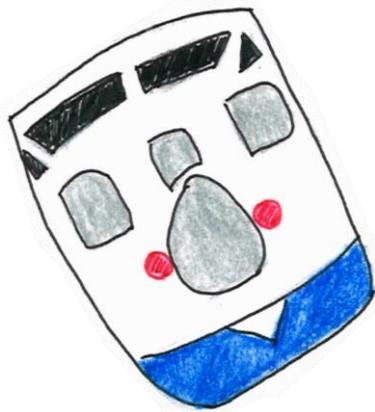
サロンの目的は、「地域の中で独りぼっちをつくらない」ことです。サロンに参加しておしゃべりしたり、趣味活動をしたり、情報交換しながら、仲間づくり・生きがいができ、日常での支え合いの輪が広がるのが期待されています。

松野町のサロンは 10 ヶ所あります。

● 社会福祉法人

社会福祉事業を行うことを目的に、社会福祉法に基づいて設立されている法人です。公益性の高い、非営利法人であり、社会福祉事業の主たる担い手としてふさわしい事業を确实、効果的、かつ公正に行っています。

資料編



I 松野町社会福祉協議会取り組み事業

安心して
生活できる
福祉のまちづくり

ふれあい・いきいきサロン

生きがい活動支援通所事業

ふれあい郵便

給食サービス

生活支援体制整備事業

介護予防訪問型サービス

居宅介護支援事業

心配ごと相談所

生活困窮者自立支援事業

生活福祉資金

小口資金貸付

福祉サービス利用援助事業

法人後見

だれもが
参加しやすい
福祉のまちづくり

福祉学習の推進

ボランティア活動の推進

福祉のつどい

日赤事業

共同募金運動の推進

地域福祉推進
のための
基盤づくり

地域福祉活動計画の推進

まごころ銀行

各種団体との連携

2 関係者名簿

■策定委員名簿

氏名	選出区分	所属
井上 六廣 (委員長)	自治会	松丸
岡村 勝		延野々
中脇 優		豊岡後
毛利 達晴		豊岡前
須田 正文		富岡
濱田 章二		上家地
竹内 義富		目黒
小西 敏文		吉野
岡本 仁志		蕨生
西村 正人		奥野川
曾根 藤光 (副委員長)		民生児童委員協議会
谷中 洋子 (副委員長)	地域の活動者	ふれあいいいききサロン
金谷 和子		松野町日赤奉仕団
板尾 優子	子育て世代	松野町PTA連合会
鶴本 好福	高齢者の代表	松野町老人クラブ連合会
岩城 義治	障がい者の代表	松野町身体障害者福祉協議会
毛利 正幸	学識経験者	中央公民館
長尾 百合	社会福祉法人	(福)宇和島福祉協会

■アドバイザー

氏名	所属
高木 寛之	山梨県立大学

■オブザーバー

氏名	所属
久保田 忠	松野町 町民課
上本 恵子	松野町 保健福祉課

この計画書のイラストについて

松野町地域福祉活動計画は、松野町に住む様々な世代の人の思いが詰まった計画書にしたいという思いを込めて策定しました。

このイラストは、旧松丸街道にある、かつてせいけ靴店だった場所を改修し、活動拠点として、様々な取り組みをされている「せいけ企画^{アクセル}ACCELE」に集う子ども達にお願いして、自分たちのまち「松野町らしさ」を考え、「松野町のこれから」を思い描いてもらいました。

大人目線から「松野町」を捉えるだけでなく、子ども達目線からも「松野町」を捉え、思いをつなぎ、みんなにとってそれぞれが住みやすい、大切なまちとなる取り組みになるよう願いを込めています。

せいけ企画ACCELEとは…

旧松丸街道の不器男記念館前、
「せいけ靴店」を改修した場所・コミュニティです。
ひとりひとりの「やりたい！」を小さく形にする、
みんなの秘密基地として
2020年6月にスタートしました。
現在は町内外の人を問わず、
松野町の交流の拠点及び貸しスペースとして、
日常的なミーティング利用や、
ワークショップ、子ども向けの講座など、
様々な用途で活用しています。
ぜひ一度見に来てください！

住所：松野町松丸170



松野町地域福祉活動計画

発行日 令和4年3月
発行 社会福祉法人 松野町社会福祉協議会
住所 〒798-2101
愛媛県北宇和郡松野町大字松丸1661-13
電話 (0895) 42-0794 FAX (0895) 20-5311
Web アドレス <http://matsuno-syakyo.or.jp>
e-mail m-fukushi@town.matsuno.ehime.jp

この「第2期松野町地域福祉活動計画」(冊子)は、
赤い羽根共同募金の配分金が活用されています。

